

Avd. 2: 1-111.

- 5) PAPPENFUSS, G. F. (1939) The development of the reproductive organs in *Acrosorium acrospermum*. Botaniska Notiser: 11-20.
- 6) WAGNER, F. S. (1954) Contribution to the morphology of Delesseriaceae. Univ. Calif. Publ. Bot. 27: 279-345.
- 7) KYLIN, H. (1956) *Die Gattungen der Rhodophyceen*. CWK Gleerups Förlag, Lund: 1-673.

藻類分布資料

千原光雄: 銚子で打揚げで得た海藻付記 Mitsuo CHIHARA: Note on algae cast up ashore at Choshi, Chiba Pref. (An addition)

さきに本誌 23 (4), p. 157 で、銚子で暖海性と寒海性の海藻を打揚げで同時に採集したことを報告したが、原稿を書いた後で、山本虎夫氏から次記の報文別刷をいただいた。山本虎夫・P. A. コルデロ二世: 紀伊半島に漂着した熱帯性褐藻類, 南紀生物 16 (2), 1974年12月。報文によると、和歌山県白浜町にある京都大学瀬戸臨海実験所及び潮岬海岸付近で、ナガミシオミドロの着生したヤバネモクを 70 個体以上も打揚げで採集したとのことである。興味あることに、採集年月日は 1974年6月4日と19日が主で、これは私が銚子でかなりの数の標本を得た7月20日と近い。時期、距離、期間、海流の流速などから判断すると、これらは一連の同一流で北上したものである。おな、紀伊のヤバネモク標本には甲殻綱雙脚目のカルエボシが着生していたとのことであるが、銚子の標本にもこの類が多量についていた。